

ささやき

ろうの患者さんへのグループカウンセリングを始めて

心理士 古賀 恵里子

琵琶湖病院で仕事を始めて20年が過ぎました。就職した当初から院内には多くの「グループ」があり、私の主な仕事も「集団精神療法」で、1週間の間にいくつものグループに参加するグループ三昧の日々でした。話し合いのグループや活動を共にするグループなど様々でしたが、グループの中で患者さんたちは、事も無げに小物を縫い上げたり、手馴れた手つきで素麺をゆでたり、隠されていた技能を発揮して下さいました。キャンプなどに出かけると、見事な連携プレーで食事の準備をこなして、要領悪くうろろしている私は「あっちいっとり！」と言われることもありました。

また、話し合いのグループでは、元気だった頃の思い出を、しっとりと情感を込めて話したり、病気を持ったがゆえの辛い体験を同じグループのメンバーと分かちあったりと、普段の療養生活の中ではあまり表に出てくることのない色々な面を見せてくれました。

1993年、聴覚障害（以下、聴障）者外来が開設されて以降、私も心理士として、聞こえに障害をもつ患者さんたちとカウンセリング等で会うようになりましたが、その頃より「聴障外来の患者さんたちと一緒にグループ（集団精神療法）ができないか？」と漠然と考えておりました。

日本では、聴障者への集団精神療法は、ほとんど実践、報告されていませんが、外国では、例えばオーストラリアのろう学校でのサイコドラマ（心理劇）やイギリスのろう者センターでのろう青年への集団精神療法等、多様な試みがなされ、それが個々のろう者の孤独感をやわらげ、自己評価や自発性を高めることに効果をもたらしたことが報告されていたことも、私の意欲を刺激しておりました。

その希望が実現できたのが2004年春、今から約2年半前です。きっかけを作ってくれたのは、当時入院治療から外来治療に移行しようとしている患

者さん達の「声」でした。「同じように精神科の病をもつ患者同士、自分たちのことばである手話で話したい」、その声に動かされ、同年6月から月1回のペースで集団精神療法（グループカウンセリング）を始めました。今年で3年目です。1回の時間は60分。定員は5名です。グループを運営する私は、メンバーである患者さんたちが、安心して自分の気持ちを話すことができる場作りとその維持を一番の大切なことと考えています。

社会で生活する私達は、大小さまざまな、公的あるいは私的なグループに意識的、ときには知らず知らずに所属してありますが、個人にとって「私のグループ」と感じることができる集団が存在することは大きな力であると、この「ろうの患者さんへのグループカウンセリング」の過程を共にしながらしみじみ感じている次第です。



「手話との出会い」

病棟 看護師 高山 美樹

この病院に就職し、聴覚障害者外来スタッフになり私は手話と出会いました。

最近、TV やドラマ等で手話を見る機会は多く興味はありましたが、手話は全くの未経験で就職してからも残念ながら聴覚障害のある患者さんに関わる機会はありませんでした。

そんな時スタッフになり、ましてや初めての会議で丁度司会の順番に当たっているというピンチに遭遇したのです。

会議の当日、司会で使う最低限の手話を教えてもらい、緊張しながらギコチなく手話を使ったのを覚えています。初めての手話だった為、手より先に口が動いてしまったり、気が付けば手話を忘れていたり・・・すぐに自分の言いたい事が伝えられず、悪戦苦闘しました。

手話を使いこなせるようになるには、まだまだ程遠いですが、手話と出会えたきっかけを大切に、少しずつ勉強していきたいと思いません。



ワンポイント手話

【 血 圧 測 定 】



血 圧

左手上腕を、右手掌で
2回たたく



測 定 (検 査)

右手2指を折り曲げて
目の前を左右に動かす

「若葉マークの手話」

精神保健福祉士 梶 佳意子

大学で福祉を学んでから早〇〇年。手話との出会いはその頃まで遡り、幾度なく手話を目にする機会があったにも関わらず、習得する事のないまま月日が過ぎてしまいました。(手話で流暢に会話する友人を横目に、いつかは私も!!と思っていた時期もあったのですが・・・)

そんな私が、今年の春から当院で働くようになってから手話を学ぶことになり、もっと早く学んでおけばと何度思ったことでしょうか。心理・相談室での朝の申し送りや手話の勉強会、院内の手話サークルと私にとり恵まれた環境で現在、手話を学ぶことができます。が、頭でガチガチになり悪戦苦闘中ですが、意味を理解することで体で覚え、手話でコミュニケーションがとれる様に上達したいです。

最近のトピックス

- * 10月15日に平和大学「広島市難聴者の集い」で、医師の藤田が「難聴者の悩みと社会参加」と題して講演を行い、聴覚障害の発生年齢や程度がさまざまな難聴者は、周囲から理解されにくかったり障害が軽く見られて、福祉と社会参加が遅れがちであることなどを説明しました。
- * 10月22日には福岡高等ろう学校のPTA研修会で、医師の藤田が「聴覚障害者の精神保健について」の講演を行いました。各地の学校で生徒や教師をめぐるトラブルが頻発している折柄、親も教師らも関心が高いようでした。

編 集 後 記

山の樹木も、そろそろ色づいてきました。当院からのぞむ琵琶湖の碧さ、比叡の山並みの紅葉、心癒されます。(な)

